

23T-pm06S

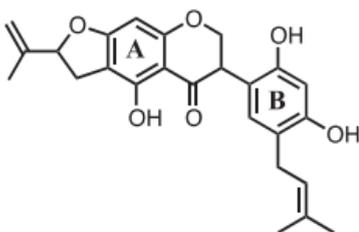
キマメ (*Cajanus cajan*) に含まれるプレニルフラボノイドに関する成分研究

○平田 理紗¹, 阿部 尚仁¹, 幅 愛美¹, 田中 稔幸², 酒井 英二³, 大山 雅義¹ (¹岐阜薬大・生薬, ²岐阜薬大・薬用資源, ³岐阜薬大・薬草園)

【目的】キマメ (*Cajanus cajan*) はマメ科の多年性草本で熱帯から亜熱帯にかけて広く分布している。本植物の種子は世界で広く食用とされており、特に南アジアでは糖尿病治療にも頻繁に用いられている。これまでにキマメ地下部および葉部からプレニル由来のユニットを有するイソフラバノン誘導体、またはプレニルスチルベンが報告されている。当研究室ではキマメ亜連に分類されるタンキリマメの成分研究を行い、新規プレニルフラボノールを単離報告¹⁾している。そこで本研究では、プレニルフラボノイドの単離を目的として同連に属する本植物の詳細な成分研究に着手した。

【方法】岐阜薬科大学薬草園にて栽培したキマメ地下部を室温にてアセトン抽出し、エキスを調製した。得られたエキスについて含有成分の分離精製を行い、単離化合物の構造は機器スペクトルデータを解析することにより決定した。

【結果】本植物の地下部より現在までに 7 種のプレニルフラボノイドを単離し、構造を明らかにした。これらのうち 6 種がイソフラバノン、1 種がフラバノン骨格を有する化合物であり、イソプレニル基またはジメチルクロメン構造を有していることが示された。また、右に示す化合物のように、フロベンゾピラン構造を有し B 環にイソプレニル基を持つイソフラバノン誘導体は文献未記載の新規化合物であった。現在引き続き成分探索を進めている。



1) 日本薬学会第 138 年会 (金沢) 講演要旨集, 27PA-pm150S (2018)